

声明書

新潟大学学長選考・監察会議が染矢俊幸氏を学長候補として選出したことに関し、厳重に抗議するとともに、学内外への丁寧な説明を求めます

2025 年 9 月 25 日、国立大学法人新潟大学学長選考・監察会議が開催され、3 名の学長選考候補者への面談ののち、染矢俊幸氏を学長候補として決定した旨、公示がなされました。このことは地元紙新潟日報等でも報道され、周知のこととなっています。

8 月に新潟大学で開催された常勤役員・教職員による意向投票では、1515 名の投票総数のうち、1 位の候補者はその半数以上の 882 票を獲得し、染矢氏は 2 位ながら、1 位の候補の半数に満たない 420 票しか獲得していませんでした。

国立大学法人新潟大学学長選考基準第 9 条 (1) では、「学長選考・監察会議は、各学長選考候補者について、過去の実績、所信書、意向投票の結果及び面談の結果を総合的に判断し、新潟大学の直面する課題に適切に対処し、将来の発展を目指す識見と能力が最も優れていると思われる者を、出席委員による合議により、学長候補者に選定する」と規定されています。すなわち意向投票の結果も考慮することは、本学の規程で明確に定められています。

今回の結果公示に際しては「本学の教育・研究・地域連携・国際化等の強みを的確に把握し、本学が進めてきた地域課題解決に向けた地域との共創、国際化を更に推進するためのグローバルキャンパスの実現、DX 推進による大学運営の革新等、更に本学を発展させるための具体的な方針が示されていた。また、本学の課題として研究力の低下を挙げ、研究力を強化するための改革方針を具体的に示しており、適切な方向性が示されていた。更に、現在新潟大学が実施し成果をあげている取組の継続性や理事としての経験を鑑み、本学の将来の発展を目指す識見と能力が最も優れていると判断し」染矢氏を選出したと説明がなされています。

しかしこのような所信における識見や、業績（理事としての経験の有無も含む）は意向投票の前に公知されており、投票者はこれを参考に真摯な判断で意向投票に臨んだものです。その結果「本学の将来の発展を目指す識見と能力」について、染矢氏は 1 位の候補者に大きく劣ると判断されました。これまで、意向投票順位とは別に学長の選出がなされた先例は他大学にもありますが、それらの場合いずれも意向投票獲得数は候補者間で比較的に僅差でした。しかし本学の今回の意向投票においては、全部局にわたり、現在の大学運営に重要な責任を持つ少なくない常勤役員も含めて、染矢氏は 1 位の候補者に大きく及ばないと判断されました。その染矢氏が、学長選考・監査会議において、学長候補として選出されることは、はなはだ理解に苦しむ事態と言わざるを得ません。

私たちは、近年他大学等で同様の事例があることに鑑み、9 月 22 日付で意向投票の重視を求める旨の要望書を委員各位に送らせていただきました。私たちの呼びかけで、ほぼ 1 週間という短期間に、呼びかけ人を含む 156 人の賛同者を、学内の幅広い部署から得ています。このことから今回の選考が、多くの構成員の納得を得られるものでないことがわかります。

ここに私たちは、染矢氏の選出に対して遺憾と抗議の意を表明し、学内外に対して納得のいく丁寧な説明を、新潟大学学長選考・監察会議に対して強く求めるものです。

2025 年 9 月 26 日

新潟大学教職員有志（五十音順） 粟生田忠雄（農学部） 伊藤亮司（農学部） 岡野
勉（教育学部） 小西博巳（理学部） 酒匂宏樹（工学部） 原直史（人文学部）
逸見龍生（人文学部）